

令和6年度 府中市立新町小学校 学校経営報告

府中市立新町小学校
校長 高橋 伸嘉

Empathic School Shinmachi II

～ あなたも わたしも 宝物 ～

【学校教育目標】

○よく考えて伸びる子
・基礎事項の習熟や主体的・対話的で深い学びをとおして、生きて働く知識や技能、思考力や判断力などを習得し、確かな学力を身に付ける児童の育成【問題解決力】
◎思いやりをもって伸びる子
・体験的な活動を通して、思いやりをもった豊かな心を醸成し、自己や他者を大切にし、みんなと仲良くする児童の育成【人間関係形成力】
○体をきたえて伸びる子
・健全な身体と規律ある生活を通して、健康で明るく、目標をもってすすんで行動する児童の育成【実践力】

【今年度の取組と評価】

(1)豊かな心の育成

①他者を思いやり、相手に尽くす心の育成

- ・「ひびかせよう！新町“あいいうえお”」をスローガンとして、一人一人の頑張りを認め、称賛する心を養う。（㊦ありがとう ㊩いいね ㊪歌声 ㊫Excellent ㊬おはよう）
- ➡あいさつを核とした基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と思いやりの心を育てる。登校時のあいさつを毎日行うとともに、児童会主催の「あいさつ運動」週間を年3回行う。
- ・互いの共感を生む活動や体験を重視した学習場面を工夫して取り上げる。
- ➡全校遠足「探検府中の森」を活動の中心にして11回の異学年交流を行い、自他のよさを認め合い、自己肯定感を高める活動に取り組む。また、高学年児童のリーダー性を育てる。
- ・動物介在教育の機会を通して優しい心を育成する。
- ➡「東京農工大学のたつと」及び「新町小のたつと」との連携を深め、低、中学年を中心に年3回以上の動物とふれあいの機会を設ける。栽培・飼育委員会を発足し、児童が主体となった動物介在教育の充実を図る。

②いじめ防止対策の徹底

- ・いじめを生まない、許さない学校づくりを推進する。
- ➡「心の健康観察」を活用し、毎月いじめ等に対する状況把握をきめ細かく行い、早期発見、瞬時対応を図る。3日以内にいじめ対策チームで情報共有し、組織的対応を図る。
- ➡いじめ対策チームへのスクールサポーターの活用等によりいじめの未然防止に努める。
- ➡ふれあい月間を含め、全校朝会等で年5回のいじめ及びSNS問題防止指導を行う。
- ➡年3回のいじめに対する授業、教員研修及び年1回のSOSの出し方に関する教育を行う。

③不登校児童への支援の強化

- ・サポートルームの校内支援体制の強化、施設の改善を行い、効果的に活用する。
- ➡活動計画及び活動記録の蓄積、ICT機器を活用した学習支援、児童同士のコミュニティ活動等を充実させ、個に応じた多様な学びの場を提供する。

- ➡毎月、不登校児童に関する校内委員会を行い、情報共有と具体的支援方法を検討する。
- ➡学校長や担任、SC による保護者面接を学期1回以上行い、具体的支援方法を検討しながら共通理解を図り、保護者との連携を深める。

④道徳教育の推進、規範意識の確立

- ・全教育活動で道徳教育の充実に取り組むとともに、「考え、議論する道徳」「問題解決的な学習」「体験的な学習」等の授業への質的転換を図る。

⑤男女平等、性の多様性に対する理解教育の推進

- ・1学期に東京都主催の研修会に参加し、校内で伝達研修を行う。
- ・学期に1回、授業又は全校朝会等で理解教育に向けた取組を行う。

⑥キャリア教育の推進

- ・各教科を通して「人間関係形成能力」の育成を目指す。3年生、6年生では、市制70周年を踏まえた地域人材や伝統文化を有効活用した体験学習等を行い、働くことの大切さや苦勞、生きがいを学ぶ活動を取り入れる。

【本項目の成果と課題】

- 学校評価アンケートにおいて「あいさつ」は84%、「思いやりの行動」に関しては84%の児童から肯定的な回答を得た。あいさつ運動や「新町あいいうえお」の取組、充実した異学年交流の積み重ねの効果が出ていることを感じるが、さらに高めていきたい。
- 新たに栽培・飼育委員会を発足したり、「新町小のたつと」、「農工大のたつと」との連携を深めたりして積極的、計画的に動物介在教育を進めることができた。委員会主催のヤギの餌やり体験、2年生の動物ふれあい教室、4年生から3年生へのヤギ飼育の引継ぎ会等を実施し、豊かな心の育成を図れた。
- タブレットを活用した「こころの天気」を毎月実施した。聞き取り後の担任、生活指導主任、管理職との情報共有を徹底して組織的対応を強化し、早期発見・早期解決を図った。「いじめの矢」「いじめている君へ」など、いじめ防止につながる講話を全校朝会で6回行った。児童にも浸透し、休み時間や放課後の話題に上がるなど効果を見せた。
- SCや関係機関との連携を図ったり、保護者面談を行ったりして不登校児童対策を図ってきた。サポートルームの施設整備、効果的な活用方法が一層進み、不登校児童のよりよいコミュニティの場となっており、不登校対策に大きな効果を示した。
- 3年生の消防署見学、5年生及び全校児童対象の「プロから学ぼう～プロ野球選手訪問～」で、外部人材を活用したキャリア教育を行った。仕事に対する見方が広がったり深まったりして、実りある活動となった。今後も積極的に外部人材活用を推進していく。

(2)確かな学力の定着

①資質・能力を育成するために特に重視する4つの視点を意識した学習の推進

- ・「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の4つの視点のどれを重点にした学習であるかを教師、児童が共に明確にして学習に取り組む。
- ➡授業計画及び黒板に明示し、意識付ける。

②校内研究及び読書活動の推進と教員の授業力の向上

- ・国語科「話すこと・聞くこと」をテーマに、年3回の研究授業行う、
- ➡授業実践の豊富な講師を招き、「話すこと・聞くこと」に関する研修を行い、授業力を養う。
- ➡「話し合いの可視化」「モデルや話型の提示」「学びの自覚化」などを視点に研究を深める。
- ・読書活動を充実させ、本に親しむ心とともに読解力、論理的思考力、集中力などを高める。
- ➡朝の読書タイムを週3回に増やすとともに、読書旬間を設ける。

➡学校図書支援員、保護者読み聞かせボランティア等との連携を深め、読み聞かせ、ブックトーク、全校読書会等の読書活動を充実させる。

③基礎的・基本的な学習内容の定着

・漢字力、計算力の定着を最重要課題とし、日常の授業及び次の機会で学習内容を習得させる。

➡ア) 東京ベーシックドリル診断テスト (年3回) イ) 習熟の時間 (週3回)

ウ) 放課後支援枠 (週2回)

④ICTを活用した授業改善

・タブレット端末の機能やeライブラリなどのデジタルドリル等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一層の充実を目指す。

➡授業参観では児童全員がICT機器を活用した指導を年1回以上義務付け、教師及び児童のICT活用能力を一層高める。

④英語教育の推進

・5年生のTGGでの英語体験活動、3年生以上の「世界とつながる英語 Enjoy Week」等を実施し、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

・学活や給食時等にもALTと関わり、日常の中でもコミュニケーション能力を育成する。

【本項目の成果と課題】

○週案に明記し、授業のはじめに児童にも示すことを徹底し、4つの視点を明確にした授業を計画的に行った。副校長による研修会も実施し、理解を深めた。

○計画通りに研究を進め、教師の授業力を高めた。朝の読書タイムには自由読書や担任の読み聞かせ活動を行い、地域人材やPTAのボランティアを活用した読み聞かせも企画し、読書活動の充実を図った。今後、さらに連携を深めていく。

○日常の授業改善とともに、週3回の「習熟タイム」、週2回の「放課後学習支援枠」を活用して個別指導を充実させ、習熟度を高めてきた。放課後事業協議会主催の「放課後学習教室」も5年ぶりに再開した。全国学力調査結果を全国平均、東京都平均と比較すると次のとおりである。【+は本校が上位、-は本校が下位】国語(都:-1% 国:+1.3%)、算数(都:-5% 国:-0.4%)。引き続き、算数の習熟度アップを図ることに努めていきたい。

○ICT担当者による研修会を実施し、ICT活用能力の向上を図り、全教員のICT活用能力が向上した。全学級で授業参観時にタブレットを活用した授業を行い、保護者にICT活用場面を提示することができた。今後もより効果的な活用を目指し、研修も継続させていく。

○英語教育では計画通りのことを行い、児童の英語力、コミュニケーション力を育成した。

(3) 健やかな体の育成

①体力向上を図る授業改善と組織的な取組

・運動量を確保し、技能及び体力の向上を図る授業力を高める。

➡管理職による授業観察を学期に1回以上行い、授業力向上を図る。

・体力テストの結果を基に、握力、持久力を中心とした体力向上プログラムを推進する。

➡「府中ロープチャレンジ旬間」を設け、校内大会を実施する。「規定A部門」において上位入賞を目指し、取組を工夫する。

➡「持久走旬間」を設け、持久力向上を目指した取組を工夫する。

➡敷地内に様々な運動習慣を身に付ける場を設置し、日常的な体力向上の取組を推進する。

②未来へつなぐ府中2020レガシー教育の充実

・市制施行70周年等を機に、「ふるさと府中」に誇りをもてる児童を育成する。

- ➡「未来へつなぐ府中2020レガシー」教育の具体的取組を継続、発展させ、府中市の未来について考える活動を学年ごとに行う。
- ➡オリンピック、パラリンピアンを活用した授業やパラスポーツ体験等を年2回計画的に行う。

③健康教育の推進

- ・学校医や関係機関等と連携した健康教育（がん教育、薬物乱用防止教室棟）を行い、正しい知識を身に付け、健康の保持増進を図る。

【本項目の成果と課題】

- 体育授業観察後の教員指導を中心に、体育科授業の改善を図ってきた。その結果、体育科授業に対する教員の意識の向上が見られ、授業改善が進んだ。ロープチャレンジ旬間及び持久走旬間を設定し、体力向上に取り組んだ。「ふちゅうロープチャレンジ」規定Aの部で、6年生の1クラスが市内1位になったことをはじめ、3年生以上の5クラスが市のベスト10に入り、表彰された。今後は体力向上を図る日常的な取組を行っていききたい。
- 計画に沿って「未来へつなぐ府中2020レガシー」の取組を推進した。ヤギの引継ぎ会に講師を招いた他、ゴールボール体験を行った。その他にも、サッカー指導キャラバン、車いす体験を開催することができた。

（４）安心・安全な教育環境の整備

①安全点検・安全指導の徹底

- ・食物アレルギー事故の未然防止に向け、複数の防止策を徹底する。
- ➡給食担当者及び管理職が保護者からの提出資料の確認を徹底する。
- ➡各教室の配色表の掲示場所の統一、配膳順序の徹底、食前の担任及び管理職と児童による除去食の確認作業を徹底する。
- ➡年1回、食物アレルギー対応を含めた校内事故の未然防止に向けた講習会を実施する。

②危機管理体制の再整備

- ・毎月、担当者による校内の危険個所の把握と整備を進め、組織的に危険回避を行う。
- ・有事の際の指揮命令システムを確立するため、防災マニュアル等を活用し、家庭と連携した危機管理意識の醸成を図る。
- ・引き渡し訓練（8月）を学校防災の日と位置付け、災害や安全について考える機会となるよう、保護者、地域に呼びかける。

【本項目の成果と課題】

- 食物アレルギー事故の未然防止に向け、給食担当、養護教諭、担任、管理職を中心に徹底した防止策を講じ、計画通りに対応した。その結果、保護者が見落としとしていた項目に対しても事前に気付き、無事故で終わられた。新たな資料を活用した食物アレルギー対応の講習会を実施し、ロールプレイング講習を通して、緊急時の組織的な対応について確認した。
- 引き渡し訓練は市全体で中止となったが、校内整備を進め、組織的に危機回避を目指し活動することができた。防災マニュアルを活用した家庭との連携については、今後も醸成を図る必要がある。来年度は、中学校と連携した引き渡し訓練を4月に実施する。

（５）小中連携一貫教育の推進、地域連携

①近隣小中学校との連携の充実（9年間を見通した教育の推進）

- ・府中第五中学校区における小中連携一貫教育を進める中で、9年間の成長を見据えた子供像を共有化し、指導の統一化を進める。

➡青少対地区委員会と連携して五地区サミットを行い、市制施行70周年を機に、児童の社会及び府中市の未来について考える力をより一層高めるとともに、郷土心を育む。

②コミュニティ・スクールの推進

- ・各学期1回のコミュニティ・スクール協議会を活用して児童の状況等に関する情報共有を図り、学校整備や安全対策などでの連携を深める。

③PTAとの連携の強化

- ・PTAとの連携を深め、年に数回、協働して児童の安全を守る活動や学校行事を行う。
- ・年2回の学校評価アンケート（項目改正）を行うとともに、保護者や関係者からの意見や要望に対しては迅速かつ丁寧な対応を心掛け、十分な説明責任を果たす。

【本項目の成果と課題】

- 「生活しやすい学校・地域～学校と学校、地域と学校ができること」をテーマにした五地区サミットを開催し、五地区小中学生の交流を深めた。代表委員会児童を中心に5年生も参加し、共感力や論理的思考力、合理形成力等を高めることができた。話し合いを基に、2月には合同地域清掃を実現させた。
- コミュニティ・スクール協議会を予定どおり行った。PTAとも適切な意見交換をしながら、PTAの組織改革を実施した。
- 学校評価アンケートにおいて、保護者対応について86%の保護者から高評価を得た。昨年度、今年度の前期から着実に高まってきた。新たに始めた自由意見に対する回答、100回以上更新した学校ブログに対しても保護者から大きな指示を得た。今後も情報発信を増やししながら、さらによりよい対応を目指して保護者との信頼関係を構築していきたい。

(6) 組織的な学校運営の推進と人材育成

①特別支援理解教育の推進

- ・特別支援教育に対する意識と専門性を高める機会を充実させる。
- ➡全学級で実施する特別支援教室担任による「特別支援理解教育」を一層充実させ、共感する心を醸成する。
- ➡年13回の校内委員会（内3回は「児童理解の会」）を行い、適切な指導・支援の方策を具現化するとともに、全ての教員の専門性を高める。

②職層意識の向上と職層を意識した人材育成

- ・主幹教諭、主任教諭の若手人材育成に対する意識と若手教員の教師力向上を図る。
- ➡主幹教諭及び主任教諭の専門性を生かしたOJTを年9回以上、また若手教員からの課題に応じたOJTを年3回以上実施し、若手教員の授業改善、生活指導力向上に努める。

③校務の効率化と適正化

- ・職員会議の提案方法を改善（ICT活用、提案資料の重点化）するなどして職務の効率化を進め、在校時間を減らす実効性のある働き方改革を推進し、月2回のノー残業デーを推進する。
- ・毎週1回経営会議を開催し、経営方針伝達場として活用し、副校長及び主幹教諭の指導・監督、調整機能を十分に発揮できるようにする。
- ・副校長等校務改善事業を活用して事務負担を軽減し、副校長がより積極的に人材育成に関わることができる体制を整え、教員の資質向上を図る。

④服務事故防止に向けた意識改革

- ・夕会及び職員会議で服務事故情報を活用して継続的に啓発を行い、規律遵守意識を高める。
- ・年6回、重点項目設定した研修会を実施し、服務事故防止の徹底を図る。

⑤教職員の心の健康の保持増進

- ・日常的によりよいコミュニケーションをとるとともに、ストレスチェックを活用し、教職員のメンタルヘルスに努める。
- ・メンターを効果的に活用し、若手教員のメンタルヘルスの維持増進を図る。

【本項目の成果と課題】

- 新たな資料を基に、全学級で「特別支援理解教育」を実施した。他の児童から通室児童への優しい言葉掛けが増えるなど、児童の思いやりが深まった。「不登校」「特別支援」に分けた校内委員会を毎月行い、特別支援教育に対する教員の専門性の向上が図られた。
- 計画的な OJT 研修、授業観察後の管理職及び主幹教諭、主任教諭からの若手教員に対する組織的な個別指導等により、教員個々の授業力向上が図られた。
- 計画通りの服務事故防止研修会及び日常的な啓発により、服務事故ゼロを達成した。
- メンター制度が効果的に機能し、若手教員の安定したメンタルヘルスにつながった。

【学校評価アンケートにおける数値目標】

項 目	児 童		保護者	
	目標	結果	目標	結果
1. 楽しい学校生活	91%以上	89%	90%以上	94%
2. 基礎学力	92%以上	91%	90%以上	87%
3. ICT 活用能力	90%以上	93%	80%以上	76%
4. 運動への取組	85%以上	79%	80%以上	77%
5. あいさつ	90%以上	84%	80%以上	72%
6. 思いやり	90%以上	84%	90%以上	95%
7. 健全な友達関係	95%以上	95%	95%以上	95%
8. 規則尊重	93%以上	94%	93%以上	90%
9. 勤労意欲	93%以上	91%	80%以上	81%
10. 健康の保持増進	80%以上	65%	80%以上	75%
11. 情報発信			90%以上	96%
11. 魅力ある学校行事			90%以上	97%
13. いじめ・不登校対策			90%以上	73%
14. 地域、保護者への対応			90%以上	86%
15. 校内美化			90%以上	87%

【結果】

- ・児童：規則を守り、良好な友達関係を築いている児童が多い。
- 保護者：目標値以下の項目もあるが、7割の項目（1・3～7・9・11・12・14・15）で前年度を上回った。
- ➡これらの状態をさらに高め、児童がより一層楽しく学校生活を送れるように、魅力ある授業や学校行事を工夫し、実践していく。また、思いやりの気持ちを醸成、いじめ防止の徹底等を目指し、児童が安心して登校できる学校づくりを行っていく。
- ➡日常的に運動に親しみ、体力向上を図る具体的方策を考え、実践していく必要がある。
- ・9「健康の保持増進」の児童アンケートは、「早寝・早起き」に特化した質問になっていたため、肯定的意見が少なくなったと考えられる。
- ・10～14の項目は、前年度に比べて高評価が大きく増加した。引き続き、魅力ある学校運営を目指していく。「いじめ・不登校対策」については、否定的意見が多い訳ではなく、「分からない」という回答が20%を超えている。（1）②③に記述したような取組に関する情報発信を充実させ、より一層理解を得られるように工夫する必要がある。